

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスブルーデイジー伊丹			
○保護者評価実施期間		2025年11月22日	~	2025年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数)	30
○従業者評価実施期間		2025年11月22日	~	2025年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日		2026年2月7日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	●専門的な資格を持つスタッフの充実 理学療法士が常勤している。また教員免許や、保育士、社会福祉士の資格を持つスタッフが多く在籍し、各々が自身の強みを生かした支援を行っている。	・英語の教員免許を持つ指導員による英会話教室や、書写的教員免許を持つ指導員による書道教室など、各スタッフの専門的な資格や経験を生かした活動を行っている。 ・本年度11月より、運動療法や療育についての情報をインスタグラムで投稿している。また、コラムやブログでの情報発信も継続して実施している。	・児童が主体的に参加できるロールプレイング型のトレーニングの機会を増やす。
2	●専門的な資格を持つスタッフの充実 学習支援では、学校の宿題に加えて、児童の苦手/得意に合わせた自主学習プリントを使用し、学力の維持、向上を図っている。	・中高生の場合は、テスト期間に集中して学習ができる機会を設けている。また希望する進路に応じて面接の練習なども行っている。 ・学習に集中することが難しい場合は、部屋や時間を他児と分けるなど、集中しやすい環境づくりに努めている。	・保護者の方、学校の先生方との意見交換を積極的に行い情報共有を行う。
3	●イベントの充実 お出かけ、クリッキングなどのイベントを通じて、児童自らが「ブルーデイジーに行きたい！」と思える支援を定期的に実施している。 夏祭り、クリスマスパーティーなどの季節のイベントを都度実施している。	・お出かけの前には「施設/公園で過ごすためのルール」などを児童にイラストで伝え、公共の場でのマナーの教育を行っている。 ・お出かけ時にはスタッフ向けのマニュアルを都度作成し、現地では迷子予防のためにビブスを児童に着用させるなど、安全に配慮している。	・年齢層の高い児童に向けた自立支援（火事、社会的マナーを学ぶ）の機会の充実を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	●保護者の方への情報発信不足。 ・災害時や感染症への対応	●各種対応マニュアルなどを作成・更新を行い、事業所内では共有・研修を行っているが、保護者の方へ共有する機会が少ない。	・保護者向けのご案内を定期的に発行する、内容は支援内容の概要・連絡事項等。
2	●施設環境の物理的制約 ・走ったり、ボールを使った球技を行うスペースがない。 ・パニックになった児童が安心して過ごせる場所が少ない。	●保護者の方より「アスレチックなような遊びを取り入れてほしい」などのご意見をいただくことがあるが、現状実施スペースがない為、簡易的なものにとどまっている。 パニックになった児童を（安全管理、心理的負担の軽減を目的に）別室に移動させる際、各部屋が別の活動を行っている為、それが難しい場合がある。	・公園へのお出かけに加えて、体育館などへのお出かけイベントを検討する。 ・カームダウンエリア（落ち着くスペース）の設置を検討する。センサリーツール（適度な感覚入力により落ち着きやすくする道具）を若干数導入し、児童の特性に合わせて利用していただく。
3	●会議や保護者の方への面談を行うスタッフの固定化	●スタッフの勤務時間の都合により、児童の支援計画を行なうメンバーが固定化されている。（情報の共有は実施されている） ●保護者の方との面談時間に勤務できるスタッフが固定化されており、多角的視野からの意見交換が厳しい場合がある。	・会議、面談とともに、参加できないスタッフの意見をあらかじめまとめておくなど、より多角的な視点の意見を支援計画の作成や保護者の方への発信にいかせるように努める。